

No. 1275

海を安全に

今年の梅雨は天候異変で晴天が続き、神奈川県湘南海岸は早くも夏のシーズンを迎えています。ヨットハーバーには所せましとヨットが並び夏を待ち焦がれていた若者たちで賑いを見せています。夏のレジャーもここ数年、大型化してきました。それにともない、ヨット、モーターボートの衝突海難事故も急激に増加しています。海上保安庁では衝突海難事故を防ぐため常に巡視艇を配備して日夜監視の目を光らせています。海上保安庁横須賀本部は三浦半島沿岸が担当海域。

4隻の巡視艇、約40人の係官がパトロールに従事しています。天候、航行船舶の情報は事故を未然に防ぐ大切な仕事のひとつです。最近モーターボートによるあて逃げ事件が増えています。船のあて逃げは衝突しても相手を助けることなくそのまま逃走するという悪質な犯罪です。今年は無免許の取締りの他、立入検査定員検査を加えてパトロールを強化しています。昨年一年間に衝突海難事故は632件発生しています。広い洋上であるため、ひとたび事故が起こると人命にかかわります。ひとりひとりが海の交通ルールを守って安全な海にしたいものです。

山の魔術師

愛知県南設楽郡鳳来町の山林で、昔ながらの木馬（きんま）で木材を運び出している人がいる。この町に住む、小野田栄一さん（46才）だ。今日、木材の需要は多く、近代的な機械を使用して運び出すのが、ほとんどだ。だが、小野田さんは山の仕事をやるようになって28年、木馬と共に歩んできた。木馬は幅45センチ、長さ2メートル50、底の部分にカシの木をはりつけた雪ソリを大きくしたようなもの。小野田さんの仕事は山ごとの請負制で、朝7時頃から日が暮れるまで一人きりで働く。奥さんが作ってくれる“どかべん”で、まづは腹ごしらえ。さていよいよ出発、山の上の木にワイヤロープの一端を固定し、それをプレーキとして使う。一種のトロッコだ。滑りが悪い時は油をさしたりする。山は空気もよいし、木馬は一人のできる仕事、しかし反面危険がともなう。今後継者はいない。全国でもまれな木馬使いも、姿を消す日が近いようである。